

08/6/17~19:

—敗戦よりも革命が恐ろしいのか?!—

〈❶現状現実無視が世界を地獄へ!〉

米帝国が断末魔を向かえ、人類史上最悪無法 9/11 自演テロ<sup>(1)(2)</sup>とイラク侵略に続き、内外巨額借金苦の末に融資米連銀が本物の偽札を爆刷<sup>(3)</sup>、見る間に投機市場流入で前代未聞の**石油穀物価格高騰**で世界中が生活大混乱。他方天候変動強大化ハリケンでミャンマ 10 万人規模死者、既にアフリカは**旱魃砂漠化飢餓疫病進行で地獄化**、オーストラリア、南欧、実は米国自身にも旱魃が進行中、他方各国で大洪水も発生、最も危険で無視されてるのが **C02 無放出でも指数関数での温度上昇進行が停止しない現実**、しかももう 1<sup>^</sup>2 度(その期間は過去よりも遥かに短時間、ここ 5 年が勝負と言われる!)の温度上昇で海底と地中にある膨大なメタンハイドレードが溶解大気放出するともはや地球は大絶滅地獄化!、その前例が考古学事実<sup>(4)(5)(6)</sup>として指摘されてる。**メタン融解危機**は時限爆弾の様相を呈してる。古代聖書ヨハネ黙示録予言世界<1000 年至福世界の突如実現>が**逆現実化**してるのだ!

〈❷全滅的危機を前に民衆-政治が腐敗愚弄マスコミに引きずられ、かき回されてる〉。

地球気候変動危機論は NASA、Jamse Hansen 等に始まり、Gore 元副大統領の映画=“不都合な真実”等で米国は言論では先進的に関わらず、実態は世界最悪国の**逆現実**なのだ。米国を中心とする英語世界の言論報道は統制されている。マスコミは上辺を偽装し(商業支配マスコミ批判にあるネットサイト情報すら、裏現実を特と見なければならぬ)、遥かに深刻な現実真相を無視、未だに経済物質文明が全く当然の如く信じて疑わない姿勢に徹してる。確かに現代の物質文明=物欲徹底追求姿勢は大衆受けではこれ以上あるまい。

〈❸世界破滅に徹底利用される間抜けな日本!〉

ビジネスマニュアルを見ると人を動かす極意は相手長所に訴える事だという。人は己存在を危惧してる者で、存在を高評価されて悪い気持ちになろう者はない。だがそれは間抜けを煽って動かすという悪巧みだ<他方長所見落としは大損害にも!>。ここでは愚直に事実を述べよう。文句は事実を訴えてくれ。明治以来の日本は米英の猿芝居だ。特に日中戦争の深みに嵌り、米国ハルノートで撤退を迫られた当時の日本支配層(天皇家とその取り巻き)は中国撤退=敗戦が国内革命になる事、己の首が飛ぶ事を最大に恐れ、あの原爆に至った敗戦=**国内外市民大量犠牲**を承知で日米開戦に踏み切った<高位支配者の没落恐怖機構=サタン化>。それこそが近衛文麿の「敗戦よりも革命が恐ろしい」<sup>(7)</sup>の表題である。

然るに上記❶❷状況と照らし合わせると、それは現状世界-日本支配層の心理そのものである事に諸氏はきずかれないだろうか？。

#### ④利用される日本の具体事実：

- (1)明治維新は英米に局地戦争で敗戦の長州薩摩が王政支配の英米勢力を背景にした外来革命。以後の歴史で天皇制は日本人奴隷化支配の最大威嚇機構にある。
  - (2)明治維新文明開化とは英米中心指導結果の、英米の為の軍事国家化。
  - (3)日清日露戦争勝利は外来勢力を背景した陰謀であり、ロシア革命の下地になった。
  - (4)日米戦争は秋丸機関の戦時模擬経済研究<sup>(8)(9)</sup>により敗戦が事前に軍事筋には判明してた。開戦決断は昭和天皇が決行した<sup>(10)(11)</sup><軍事統帥権と戦争責任>。
  - (5)占領軍マッカーサー米国は天皇制を日本威嚇支配に徹底利用した。
  - (6)戦後日本とは天皇家大財閥官僚機構支配を頂点にした米国従属奴隷頭をすえた米国の為の政治経済文化-軍事での見えざる奴隷国家体制。
  - (7)戦後経済成長は米国技術導入と市場開放で育成され、農水業潰しと引き換え工業化繁栄は日本人大衆受けし、かつ米国民に安価な民生品大量供給にも寄与。バブル経済崩壊10年を境に米国型所得高位独占(労働強化&派遣社員合法化)に移行、その結果が現日本の異常金余りと前代未聞の金利。日本工業化影響は国内にとどまらずアジアにも波及する。
  - (8)0金利円は海外投資家の餌食となり、円ドル為替資金(円キャリー)として米国投機市場に流入。サウジ中国欧州の余剰資金もその性格がある。この低額米流入資金が米国に巨額負債を形成、その付け負債救済融資に絡むFRBの\$爆刷で現在の投機による世界的な原油穀物資源産品高騰化を将来してる。途上国では食糧暴動と飢餓が進行。
  - (9)米国の片棒を担ぐ世界経済急成長体制で現在の気候変動危機にも貢献という次第。気候変動危機は西欧文明拡大=資本主義経済成長そのものだった事実である。
  - (10)アジア初開催での気候変動危機回避の為の京都議定書とあるのは天候変動危機がまず有色人種国家大陸で始まる事に有色人種日本が音頭をとって先導した責任の意味を特と考慮すべし。歴史責任を有色人種国家日本が負うという意味になる。気候変動危機情報で世界最大権威にある現 IPCC 会長もインド人である事。米英世界の狡猾な陰謀にきずくべし。他方で非欧米諸国への警告啓蒙の意味もある事は事実である。IPCC 現状姿勢は現在の世界体制に迎合的で実質的回避力にあるとは見られない<内部で関与した現場実情を知る科学者たちにはより急進的な見解と持つ者も多いだろう>。
  - (11)兎も角、米国が大規模に変化がなければ世界救済はない。然るこの時期に Barack-Obama が米国史にあつて前代未聞の“金権既成権力とつながらない大統領候補として、米国大衆による巨額寄付金での中道左派的な草の根運動”で登場。彼を認知支援した米国民良心に期待を寄せざるを得ない。下衆の勘ぐりはやめて応援すべきだろう。
- (12)金権既成権力とつながらない“自由政治家”として、本気で日本人大衆による小額投資-累積巨額寄付金での中道左派的な草の根運動がなければ旧来政治は打破できない。今の日本こそが **Barack-Obama 型政治家を必要**としている。ではどうして B0 型政治家を打ち上げるか!、やればできる現実がまさにあつた訳です。

## ⑤ 若年世代は人類最大最後の危機をテコに自覚覚醒団結する以外に救済がない！！

近日には若年世代が秋葉原で陰惨な事件を起こし、他方で異常殺人犯の処刑もあった。経済成長下で育成した現代若年世代は同じDNAを有しても伝統的な日本人とは異質だ。まさかと思われようが筆者観測では若年世代は敗北世代として裏管理育成されてる。その真意は困窮耐久性だ！！、大問題を面前に挑戦できる自信の有無が勝敗を決する。〈我が子を生贄に奉げるアブラハム神話〉。まずは孫子の教え第一条に従い、敵と己を知る事。教科書やゲーム機器で能力開発ができるなんて皆嘘！？、最大能力開発法は現実直視の現実問題と対峙する真剣勝負現場にこそ真の育成があるからだ。正解も行動になってこそ初めて実現する〈<http://www.777true.com/>”意思決断の論理”参照〉。

## ① ハードウェアとしての自然界に生きる事の生身の現実<脱キーボード&映像幻想>:

- (1) 貧困下育成の若年者も例外にないが、概して物過剰で“生きる基礎現実の体感”がない。生きて行く事は先ず食量確保-調理ができる事だ。時には生存物資をリュックに詰め込んで原野、海辺、山登りをやって下さい。体感で生身の自然界に生き伸びる事を知る。
- (2) 穀物野菜や魚肉類、資源産品がどんな現場で生産されてるかを特と知るべし。都会工場や事務所とは異次元世界がそこにあります。虫や天候次第では一発でだめになる現実も。結果次第では何もせずとも暇をもてあまして実が収穫できる。都会の華美世界とは長い歴史では泡沫麻薬夢想世界、麻薬が一度切れると如何なる世界がまっていますか？！米国映画マトリックスの”真意=超技術化ファシズム世界”の寓話比喩を知ってるか？！
- (3) 苦痛もある筋肉(ハード作業)トレがないと頑張れる潜在意識が育成できない。筆者も同様だが、パソコン携帯、ゲーム機器の如き、指動作一本のソフト作業には現実感喪失と生身の人間接触機会喪失の重大な欠陥がある(利便性もあるぞ)〈分裂させて支配せよ〉。
- (4) 会合、飲み会、合ハイ、人が集まり本音議論できる場を増やす〈分裂から団結へ〉。

## ② 大局本質から発想する<根源原理を把握すれば、大問題が小さくなってしまおう！>.

- (1) 本サイト大局結論は唯一、人は共に生きるべし<この否定命題は！>。
- (2) 現実世界全ての真理真相大局を把握する。その骸骨は論理学、肉は歴史と科学真相。論理学は真偽判定の原理、偽命題に従うと破綻破滅、真命題だけが秩序持続可能。人間歴史真相とは(1)逆命題の覇権戦争(偽命題的)と順命題の宗教(真命題的)。所謂人間の生き方=思想哲学は宗教(現代は偽宗教も多い)にて既に語られています。
- (3) かくあるべき未来大結果を想定してから、逆算して暫時今の細事を決定する<sup>(6)</sup>。全部でないが現状を改良してと言うのは細事、それが生き詰まりにあるのが現代。
- (4) 問題が壁に遭遇したならば、原点回帰から再生する以外に手立てがない。既成体制秀才は現状改良路線、真の指導者は同時に革命的原理(論理)主義者、
- (5) だましとは真理真実の逆様、破綻とは偽だからどこかに逆様がある。人は常識に凝り固まっており、発想逆転は容易でない。実は真理は単純！、

## ⑥ 発想大転換の緊急必然性：

今後 5~10 年以内に達成すべき政策目標はもはや**国民生存基礎確保**だけになる。

生活物資統制配給も含む**準戦時体制**と思えば理解し易い。

☞：住宅ローン巨額破綻に発する米 FER 巨額 \$ 融資が生存必須資源物資(石油穀物)投機市場で爆発、ここに**{食糧, エネルギー, 住宅}**と言う生存 3 大要素が並んでる事に注目せよ！

### ① 気候大変動危機下で価値重大化する生存基礎要素<食糧-エネルギー-住宅>：

(1)気候大変動危機下ではもはや、政策目標は生存資源(水資源問題も含む)を巡る国際的争奪を回避して、如何に国民生存を確保するかに集約してくる。したがって事情次第では資源国家統制(配給制度)すら考慮対処から外せない。現状においても日本では輸入小麦は国家統制価格である。昭和 30 年頃まで米配給制度が現実にもあった。

### ② 資源産品市場公的規制の必然性：

日本はおろか、欧州でも原油高騰で漁師船が動かず、EU 本部前で暴動に至る事態に進行してる。マグロ、イカ船の休業化、現状延長では廃業とも言われる。

☞：最終的に漁船のヨット帆船の追加機能が望まれるが誰が費用負担するか？。

これは原油需要増に起因した価格高騰でなく、例の \$ 投機資金爆発による。

生活必須物資は価格の如何に問わず必要量を確保せねばならないという特殊事情があり、今回の一件は{食糧. 石油}と言う国際資源産品自由市場では価格暴騰に歯止めかからず生活大混乱をきたすという目的逸脱の自由市場機能不全を図らずも実証してしまった。

(a)これに関して、国際世論での指摘が起こらない事は実に間抜けな話でないか。次回洞爺湖サミットで本件が解決を見ないと世界には救済がない事になってしまう。

(b)CO2 削減に関して原油暴騰はひとつの強制力になる視点がある。新規代替-技術方式開発が促進される要因になる<地産地消方式、路面電車、鉄道輸送>。

(c)だが食糧暴騰は途上国市民生命に直結しており、「人は共に生きるべし」の神勅命視点からすれば現状容認は適者生存優生主義の戦争化暗黙肯定と見なされる。

### ② 建造物道路土建から**農業土木(地下建造物)**へ<資源産業再生政策>：

(1)既成農家にすれば新規参入は競争相手出現に見えるが、そんなケチを言える時代でない。素人にできない穀物専門家たるべきだろう。素人家庭菜園を馬鹿にすべきでない。

(2)大局的に見て、ともかく**食糧生産自給国化**には(田畑+農業従事者)**倍増**が不可避になる。基盤整備と新規参入機会促進の(民間力+政治制度)がなければ不可能。

(3)大量雇用先である輸送機家電機器メ-カも**エネルギー+農業**への転換を検討すべきだ。

(4)資本投資を資源産業再生と耐気候変動型社会基盤整備に大転換する。

(5)**大転換**こそは経済活きず詰まり解消と将来危機準備の一石二鳥と言う視点を持つべし。

## 参考資料：

- (1)田中宇, 仕組まれた 9/11, PHP 出版, 2002.
- (2)Benjamin Fulford, 9. 11 テロ捏造, 徳間書店, 2006.
- (3)近年 FRB は通貨供給量情報公開停止という前代未聞の沙汰にある。
- (4)John Atcheson, (Methane Burps) Ticking Time Bomb (Baltimore Sun, 2004/December/15),  
<http://www.commondreams.org/views04/1215-24.htm>
- (5)Michael. J. Benton, When Life Nearly Died (p271), Thames & Hudson Ltd, UK, 2003.
- (6)田中優, 地球温暖化/人類滅亡のシナリオは回避できるか, 扶桑社, 2007.  
メタン蒸発で地球生命瀕死化の古代気候学事実に言及。猶予時間がない問題も。
- (7)赤間剛、ヒトラーの世界, 三一書房, 1983.
- (8)NHK 3chTV, 秋丸機関報告書, 1991/12.
- (9)Fuji 8ch TV, 昭和 16 年の敗戦, 1991/12.
- (10)赤間剛、昭和天皇の秘密, 三一書房, 1990.
- (11)D. Bergermini, Janapan' s imperial conspiracy, William Morrow and Co INC, 1972  
飯田もも訳, 天皇の陰謀, 現代書林, 1983>
  
- (12)神代康隆, 神の計画書、黙示録大予言, 学研, 1983.
- (13)赤間剛、フリーメソンの秘密, 三一書房, 1983.
- (14)赤間剛、神々の陰謀 I II III, 時の経済社, 1984, 1985, 1985.
- (15)赤間剛、アメリカの秘密, 三一書房, 1984, 1985, 1985.
- (16)歴史読本 1986/9, 特集：世界謎の秘密結社, 新人物往来社.
- (17)歴史読本 1988/9, 特集：世界を動かす謎の国際機関, 新人物往来社.
- (18)K. Millegan & A. Sutton, Fleshing out skull & bones, Trineday, LLC, 2003  
北田浩一訳, 闇の権力. スカル&ボンズ、徳間書店, 2002.
  
- (19)[Jucelino Nobrega da Luz](#)、山川栄一訳、ジュセリーノ未来予知ノート、  
ソフトバンク クリエティブ, 2007。
- (20)Mario Enzo, O HOMEN A FRENTE DAS PROFECIAS, Mario Enzo Bellio Jr, 2005.  
マリオ. エンジオ著、山川栄一訳、未来からの警告、たま出版, 2007.
  
- (21)Al' Quaran (日本語訳コーラン), Toshihiko. Izutsu, Iwanami bookstore, 1957, Tokyo
- (22)聖書 (Old testament, Japanese Edtion), Japan Holy bible society, 1955
- (23)鈴木永城, お経の意味がやさしくわかる本, 河出書房, 2001.